機能動詞結合における動詞の選択制約
—「影響を与える」と「影響する」—

岡嶋裕子（東京大学大学院博士課程総合文化研究科）

Selectional Restrictions on Verbs in Light-verb Combining
—“Eikyo wo ataeru” and “Eikyo-suru”—

Yuko Okajima (Graduate School of Arts and Sciences, University of Tokyo)

1. はじめに

動作・状態・現象を示す名詞を事態性名詞といい、その事態性名詞と結び付き文法的な機能を果たす動詞が機能動詞である。また、その事態性名詞と機能動詞が結び付いたものを機能動詞結合といい、「散歩をする」「迷惑をかける」「煙が立つ」などの例が挙げられる。この機能動詞結合は慣用性があるため、日本語学習者は、どの事態性名詞とどの機能動詞が結び付くのかを個々に習得しなければならない。

岡嶋（2011）は、中国語を母語とする日本語学習者の作文を分析し、学習者の機能動詞結合使用において誤用を生じる要因の一つに、機能動詞結合そのものが複雑であることを挙げている。岡嶋の調査で、結合が難しいために誤用が生じた機能動詞結合で用いられていた事態性名詞は、「影響」と「注意」の二つだった。「影響」について、辞書では「他に作用が及んで、反応・変化があらわれること（広辞苑）」と一つの意味しか記載していない。しかし、「影響」に接続する機能動詞が「する」「与える」「ある」等と異なった場合、機能動詞結合全体としてその意味・用法も異なってくる。機能動詞結合は語と語の慣用的な結び付きであることから、コロケーションの一種と考えられる。近年、単語単位の語彙学習の限界からコロケーション学習が注目されているが、結び付く語の組み合わせによってどのような使用制約があるのかについての研究はまだなされていない。

本研究では、日本語学習者にとって習得が困難である機能動詞結合の中から、「影響を与える」と「影響する」を取り上げ、両者にどのような意味・使用の違いがあるのかを明らかにする。この具体的な個別事例の解明を通して、習得困難な機能動詞結合が一般的に抱える問題点を明らかにする端緒としたい。

2. 先行研究

藤井・上垣（2008）は、本稿の調査と同じ国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』を用いて機能動詞結合の事例を分析したが、「与える」が参与する事態性名詞のほとんどが一桁の事例しかない中で、「影響」のみが 316 例と群を抜いていた。

谷部（2002）は、事態性名詞に漢語を取る機能動詞結合を取り上げ、新聞における使用実態を調査した。谷部は、機能動詞結合のうちヴォイス的意味を担う機能動詞である「－スル／サレル」形（ex. 影響する／される）と「－ヲアタエル／－ヲウケル」形（ex. 影響を与える／受ける）の出現件数を分析し、「影響」の特殊性について報告している。報告では、調査対象とした事態性名詞の中で「影響」1 語のみが、「－ヲアタエル」形の方が「－ヲウケル」形を上回っていた。また、「影響」は「－ヲアタエル／－ヲウケル」形とも、「－ス

ル／サレル」形を上回る唯一の語であり、さらに能動表現は「ースル」形と「ーヲアタエル」形とで大差がないのに、受動表現は「サレル」形と「ーヲウケル」形では約 1 対 6 の開きがあった。谷部は、「影響」は「影響をおよぼす」「影響をこうむる」といった表現もあり、名詞表現[1]が優勢であると述べている。日本語学習者の作文に出てくる機能動詞結合を調査した岡嶋では、「影響」を用いた誤用が 7 例あったが、そのすべてで、機能動詞に「する」が用いられていた。出てきた誤用例は以下である。

a ＊一人が一日にいくつかたばこを吸ってもいい。でも別の人にえいきょうしないはずだ。（影響を与えない）

b ＊ 吸う人が吸わない人に、影響させるので、（影響を与えるので）

（＊は誤用、（　）内は下線部を正しく言い換えたもの：以下同様）

村木（1991）によると、「する」は実質的な意味が希薄な典型的機能動詞であり、生産性が高く、多くの事態性名詞と結び付く。したがって、日本語学習者にとって最も用いやすい機能動詞だと考えられる。では、なぜ事態性名詞「影響」では、「与える」「受ける」などの他の機能動詞との結合ではなく、「影響する」と「する」を用いた場合だけに誤用が見られたのだろうか。

3. 調査概要

A 調査目的

機能動詞結合「影響を与える」と「影響する」を調査対象とし、それぞれがどのように使い分けられているのかを明らかにする。

B 調査資料

多義語の意味・使用の差別化、分析を行った Fillmore and Atkins (1992)、Atkins. S. et al. (2003) にならい、コーパスを用いる。用いたコーパスは次のものである。

国立国語研究所　コーパス　KOTONOHA 『少納言』[2]

『少納言』では大量のデータの中から、無作為データを抽出することができるが、その中から「影響を与える」「影響する」それぞれの用例 100 を抽出した。

C 分析方法

(1) 「影響を与える」と「影響する」とが入れ替え可能か否かを 3 段階評価。

可　／　どちらとも判断できず　／　不可

3 人の日本語母語話者が判断し、2 人以上が一致した結果を採用。

(2) 各用例で「影響」を引き起こしている“causer”と、その“対象”を、国立国語研究所「分類語彙表」の区分に基づいて次の 6 つに分類

①抽象的関係　ex. 要因、事情、特徴、進展、増加、変化、数量、時間

②人間活動の主体　ex.人間、子孫、日本人、メンバー、世界、国、山村、会社、銀行

③人間活動―精神及び行為

ex. 意思、態度、教育、文化、権利、法律、経済、利益、運動、行為、産業

④人間活動の生産物ー結果及び用具　ex. 食べ物、蒸気機関、ソフト

⑤自然―自然物及び自然現象　ex. 味、気候、波、生物、からだ、分娩、成育、疾病

⑥不明: “causer”や“対象”が文の中に表れないもの、またはコーパスに表示された 80

---

[1] 名詞が核になっている表現構造。ex.注意を与える　（cf. 動詞表現：ex.注意する）

[2] 『少納言』のうち、書籍、雑誌、新聞、教科書、Yahoo!知恵袋、Yahoo!ブログを使用し、白書、韻文、広報、法律、国会会議録は除いた。

字前後の文脈の中では特定できないもの。

(3)「影響」の結果を 3 段階に分類

良い　／　どちらとも判断できず　／　悪い

3 人の日本語母語話者が判断し、2 人以上が一致した結果を採用。

判断基準

①言い換え

「影響」に修飾語が付いている場合、言い換えにあたっては、連用修飾は連体修飾に、連体修飾は連用修飾に置き換えた。

ex. 大きな影響を与えた。　⇔　大きく影響した。

言い換えが可能かどうかは、言い換えた後の文が同じ内容を伝えており、かつ自然かどうかで判断した。

②「影響」の結果の良し悪しの判定

文中に良い結果を示す表現があるもの、なくてもそう読み取れるものは良い結果とした。

ex. タイムに影響を与えられるようになってきたことが、うれしくて仕方ないという。

文中に悪い結果を示す表現があるもの、なくてもそう読み取れるものは悪い結果とした。

ex. 自分が病気になると生まれる子に影響するだろう。

4. 分析結果

「影響を与える」の分析結果を表 1 に、「「影響する」の分析結果を表 2 にまとめた。”causer”と対象が「主体」であるかどうかで大きな違いを見せたため、“causer”と、“対象”の下位分類のうち、分析方法で述べた①抽象的関係、③人間活動、④人間活動の生産物、⑤自然の 4 つは「その他」にまとめた。したがって、表 1、表 2 では、“causer”と、“対象”は「人間活動の主体」(以下、「主体」)、「その他」、「不明」の 3 つに分類されている。

表 1　「影響を与える」分析結果

		「影響を与える」	「影響する」との言い換え		
			可	判断つかず	不可
計		100	51	15	34
“causer”	「主体」	10	0	0	10
	その他	70	42	12	16
	不明	20	9	3	8
“対　象”	「主体」	24	2	5	17
	その他	69	44	10	15
	不明	7	5	0	2
「影響」の結果	良い	6	1	1	4
	中立	81	41	12	28
	悪い	13	9	2	2

表 2　「影響する」分析結果

		「影響する」	「～与える」との言い換え		
			可	判断つかず	不可
計		100	93	5	2
“causer”	「主体」	0	0	0	0
	その他	93	87	4	2
	?	7	6	1	0
“対　象”	「主体」	3	3	0	0
	その他	91	87	4	0
	?	6	3	1	2
「影響」の結果	良い	1	1	0	0
	中立	73	69	2	2
	悪い	26	23	3	0

5.　考察

5. 1　causer と対象

事態性名詞「影響」に機能動詞「与える」がついた場合と「する」がついた場合で“causer”と“対象”に違いがあるのかを見てみると、“causer”と“対象”が「主体」であるかどうかで大きな違いがあった。「主体」には、人間だけでなく、日本人、国、山村、会社、銀行、世界等が含まれる。

「影響を与える」（以下『与える』）の分析結果を示した表 1 で顕著なのは、“causer”が「主体」のものは 10 あったが、すべて「影響する」（以下『する』）に言い換えができなかったことである。c-1 は“causer”が「主体」である『与える』のデータだが、c-2 のように『する』に言い換えることはできないと判定された。

c-1 ユスティニアヌス帝の妃テオドラは、夫の政策決定に大きな影響を与えた

c-2 ＊ユスティニアヌス帝の妃テオドラは、夫の政策決定に大きく影響した

『与える』の“対象”はどうかというと、“対象”が「主体」であるデータ 24 の内 17（71%）が「する」に言い換えることができないと判定された。d-1 は“対象”が「主体」である『与える』のデータだが、それを『する』に言い換えた d-2 は容認されなかった。

d-1 ギンギンに効かせたサーフ・ギターのスタイルは、全世界のギタリストに直接的な影響を与えているはずだ

d-2 ＊ギンギンに効かせたサーフ・ギターのスタイルは、全世界のギタリストに直接的に影響しているはずだ

つまり『与える』の場合、“causer”と“対象”に「主体」を取るもののほとんどは、「する」と言い換えできないと判定されたことになる。

「影響する」の場合を表 2 で見ると、『与える』の場合とは違って、“causer”に「主体」をとるものは 1 つもなく、“対象”で「主体」をとるものは 3 データだけであった。この 3

データに該当する「主体」は、「胎児」2、「将来の社会」1 であった。「胎児」は「活動の主体」とは言えず、また‘現在の社会’とは異なり‘将来の社会’では「活動の主体」としての意思形成はまだなされていない。e は“causer”が「胎児」だった『する』のデータである。

e 自分が病気になると生まれる子に影響するだろう。

したがって、『する』では、“causer”または“対象”に「主体」を取るものはまったくなかったと言える。

以上から、“causer”または“対象”に「主体」が来る場合、「影響を与える」は用いることができるが、「影響する」を用いることはできないと結論される。

岡嶋の誤用例は次のようであった。

（再掲）a ＊一人が一日にいくつかたばこを吸ってもいい。でも別の人にえいきょうしないはずだ。（影響を与えない）

b ＊ 吸う人が吸わない人に、影響させるので、（影響を与えるので）

これらは、いずれも“対象”に活動の主体である“人”が来ているために許容されないと考えられる。

5.2 良い結果か悪い結果か

f 円高が企業経営に影響を与えた。

g 円高が企業経営に影響した。

g の場合、円高によって経営が悪化したと思われるが、f の場合には、円高が経営に良い影響を及ぼしたとも、悪い影響を及ぼしたとも、どちらとも言えない。このように、「する」を用いた場合、「影響」の結果がよくないことを含意すると直感的に思われるが、実際にそうであるのか、コーパスデータで調査してみた。

表 3 は、「影響を与える」と「影響する」それぞれのデータ文で、影響が良い結果を生じていたか、悪い結果を生じていたかをまとめたものである。

表 3 「影響」の結果の良し悪しクロス表

	良	中立	悪	計
「影響を与える」	6	81	13	100
「影響する」	1	73	26	100
計	7	154	39	200

『与える』の場合、良い結果は 6、悪い結果は 13、『する』の場合、良い結果は 1[3]、悪い結果は 26 だった。χ^2 検定で『与える』と『する』の違いを見てみると、χ^2（2, N=200）= .016、P< .05 で、有意差が見られた。したがって、『与える』の場合には良い結果、悪い結果、どちらとも言えない中立のもの、どれでもが含まれうるが、『する』の場合、『与える』よりも、良い結果は含まれにくく、悪い結果が含まれやすいといえる。

[3] 「影響する」で１つだけよい結果を表すものであると判定された事例

ex.「組織化された集団の３が，目標設定と目標達成に向かって，努力するよう影響するプロセス（または行動）である」と定義づけられている。

例 h は日本語学習者の作文から取ったものだが、日本語教師 3 人が『する』は誤用であり、『与える』に修正すべきであるとした。

h ＊インターネットは、新しい生活方式として、われわれの生活に非常に影響した。

インターネットは生活に良い影響を与えるものと一般的にみなされるから、e の文脈では『する』とそぐわないのである。i のようにマイナスの結果を引き起こすと解釈されるものと置き換えると、容認される文となる。

i 昨年度の消費税引き上げは、われわれの生活に非常に影響した。

5.3　相互の言い換え

どちらとも判断がつかなかったものを除き、「与える」と「する」相互に入れ替えができたものとできなかったものだけを表 4 にまとめた。「与える」から「する」に言い換えが可能なものは 51、不可のものは 34 であるのに対し、「する」から「与える」に言い換えが可能なのは 93、不可のものは 2 だけだった。したがって、「影響する」はほとんど「影響を与える」と言い換えが可能だが、「影響を与える」から「影響する」に言い換えられるものには制約があるということになる。

どのようなものが「影響を与える」から「影響する」に言い換えられないかを見ると（表 5)、「与える」から「する」に言い変えられないもの 34 の内、影響が良い結果であるものが 4、影響の“causer”または“対象”に「主体」が含まれるものが 22 あった。

表 4　言い換え可・不可数

	可	不可
与える→する	51	34
する→与える	93	2

表 5　〈与える→する〉言い換え不可要因

良い結果	4
「主体」	22
その他	11
計	37

注)・“causer”と“対象”両方が主体である場合は 1 例と数えた。
・よい結果と「主体」がダブっているものが 3 例

5.4　「影響を与える」と「影響する」の使用制約

以上見てきた結果を表 6 にまとめた。「与える」は“causer”にも“対象”にも「主体」を取ることができるが、「する」は取ることができない。また、影響によって良い結果が引き起こされる場合には、「する」は用いられづらいが、「与える」はどんな結果の場合でも用いることがほぼ可能である。したがって、『する』は『与える』と比べ、多くの使用制約があり、「与える」から「する」に言い換えられない場合が多くあるが、「する」から「与える」への言い換えは、ほとんどの場合問題がない。図 1 に、表 6 の『与える』と『する』の関係を図示した。

谷部は、「影響」は「ーヲアタエル／ーヲウケル」形とも、「ースル／サレル」形を上回る唯一の語であると報告しているが、それはこのように『与える』よりも『する』の方が使用制約が多く、選別的であるためと考えられる。また、岡嶋の「影響」を用いた誤用で全て「する」が用いられていたのも、このように「する」のほうが使用制約が多いので、誤用が生じやすいからである。

表 6　使用制約

	「影響を与える」	「影響する」
①causer・対象に「主体」	可	不可
②「影響」の結果が良いもの	可	不可
使用制約	無	有

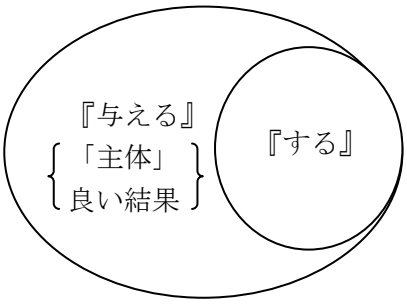

図 1　「与える」と「する」の文中での使用範囲

5.5　語彙概念構造試案

はじめにで述べたように、事態性名詞「影響」の辞書で記載されている意味は一つだけであるが、機能動詞が付加されることによって、機能動詞結合として、新たな意味・使用制約が生じる。日本語学習者が、機能動詞結合を実際に文中で用いようとする際に、適切に使い分けし、また、誤用を犯した場合に、何が問題であるかを理解するためには、結び付く動詞によって、機能動詞結合の意味・用法がどのように異なってくるのかを、体系的に示す必要がある。

自然言語処理の分野では、影山（1996）の分析に基づいて岡山大学が作成した日本語語彙概念辞書がWeb上で公開[4]されている。そこで提示されている「影響する」の語彙概念構造は次のようである。

([動作主]の働きかけで)　<対象>が何らかの影響を受けた状態になる。

[[　]y BE AT [　]z]

y、z は項を表し、BE AT は項 y が項 z の状態である、あるいは場所に存在することを表している。この岡山大学の辞書は、基本的な意味の骨組みによって語彙をパターンごとにまとめることが目的であるので、基本構造だけを取り出している。しかし、本研究の目的は逆に、類似した意味を持つ機能動詞結合の差異化を行うことである。そこで、この枠組みを元にして、日本語学習のために、「影響を与える」と「影響する」の違いを明示した機能動詞結合の（複合的）語彙概念構造（試案）を次のように提起する。

［$_N$影響］［$_P$を］［$_V$与える］

causer x が対象 y に働きかけた結果、対象 y が変化する。

[[　]x ACT ON [...] y] CAUSE [BECOME [　]y [BE AT CHANGED]]

（N: 名詞 noun 、P: 助詞 particle 、V: 動詞 verb　／　点線下線は任意の要素を表す）

これに、x＝円高、y ＝貿易　である例 j を当てはめると次のようになる。

j 円高が貿易に影響を与えた。

[[円高] ACT ON [貿易]] CAUSE [BECOME [貿易] [BE AT CHANGED]]

[4] 岡山大学語彙概念構造辞書　http://cl.it.okayama-u.ac.jp/rsc/lcs

［$_V$影響する］
causer x（ヒトではない）が対象 y（ヒトではない）に働きかけた結果、対象 y が（中立的・悪い状態に）変化する。
[[ ]x impersonal ACT ON [ ]y impersonal] CAUSE [BECOME [ ]y impersonal [BE AT CHANGED not good]]

両者を比較すると、基本構造は同じだが、「影響する」の概念構造では「影響を与える」に 2 つの制約が付加されている（網掛部分）。「影響する」の 2 つの制約とは、ひとつは“causer”と“対象”にヒトを用いることはできないこと、そしてもうひとつは、影響によって生じる結果には、悪い結果、中立的結果のみが来て、良い結果は来ないということである。

なお、概念構造の最初に「影響を与える」「影響する」の品詞分類を示したが、それは、「影響を与える」の「影響」は名詞であるのに対し、「影響する」は全体で 1 つの動詞で品詞が異なるという情報提供が、日本語学習者にとって重要だからである。辞書（大辞林）に「影響」は名詞であると記載されてあることもあり、学習者は k のように、「影響する」の「影響」を名詞ととらえて連体修飾してしまう誤用が多く見られるからである。

k ＊他の人に悪い影響することがある。

今回は「影響を与える」と「影響する」だけを対象としたが、事態性名詞「影響」は他に「影響を受ける」「影響される」「影響がある」「影響を及ぼす」と多様な機能動詞結合があるので、さらにそれらの調査分析も行いたい。また、「影響」に限らず、他の複雑な結び付きを行う機能動詞結合の総合的な分析を行うことを今後の課題とする。

文 献

岡嶋裕子（2011）「漢字圏日本語学習者の機能動詞結合習得」第十回世界日本語教育大会予稿集、pp.464-465.

影山太郎（1996）『動詞意味論―言語と認知の接点―』くろしお出版

国立国語研究所（1964）『分類語彙表』秀英出版

藤井聖子・上垣渉（2008）「支援動詞構文における事態性名詞と動詞との項共有と連結性:『日本語コーパス』を用いた分析」日本言語学会第 136 大会予稿集、pp.432-437.

村木新次郎（1991）『日本語動詞の諸相』ひつじ書房

谷部弘子（2002）「日本語中級段階の漢語運用に関する一考察―漢語動名詞の機能動詞結合を中心に―」『東京学芸大学紀要 2 部門』第 53 号, pp.147-155.

Sue Atkins, Michael Rundell, and Hiroaki Sato (2003) The Contribution of FrameNet to Practical Lexicography, *International Journal of Lexicography*, 16:3, pp. 333-357.

Charles J. Fillmore and Sue Atkins (1992) Towards a frame-based organization of the lexicon: The semantics of RISK and its neighbors, Lehrer, A and Kittay, E. (eds.) *Frames, Fields, and Contrast: New Essays in Semantics and Lexical Organization.* Hillsdale: Lawrence Erlbaum Associates. pp. 75-102.

関連 URL

岡山大学語彙概念構造辞書　http://cl.it.okayama-u.ac.jp/rsc/lcs

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』KOTONOHA「少納言」http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/